

英彦の泉

聖母の騎士学園
同窓会会報

☎850-0012
長崎市本河内2-2-2
TEL 095-823-4523
FAX 095-823-4759
- 第16号 -

還暦を過ぎて

同窓会会長 大石 諭



まだまだ若いつもりでいた人生が、60才を過ぎて急に慌ただしくなって来た。高血圧だ高脂血症だのコレステロールがどうだのと、その他諸々の臓器が物は言わぬが、検査をすると数字が物語っている。急にあの世に行って「臓器提供します」などと言った所で、「お呼びでない」と言われ、その周りを見渡すと私よりも若い人が多くいることに気付いた。(結構年寄りも多いけど)昔に比べて長生きする人が増えたのであろう。

の先祖の生活向上と、信仰を守るために多大な貢献をしてくださった。ド・口神父のお墓も出津教会の共同墓地にある。異国に来て何の見返りもなくただ人の為に尽くす、これが最高の人間愛なのかも知れない。いやきつとそうだと思う。現在もド・口神父様の遺産として、年に私が数回行く出津教会、又50数年前に通った出津愛児園(現在はド・口神父記念館)やド・口塀、以前修道院だった救助院跡などが今も残っている。又、私が中学、高校とお世話になった母校の創立者『マキシミアノ・マリア・コルベ神父』も皆さんご存知の様に、先の第2次大戦中アウシュビッツの強制収容所で、自ら進んで他の人の身代りとなり処刑さ

アダム阿野勝見 修道士を悼む

聖母の騎士高等学校
校長 崎濱宏美

昭和28年4月14日、16名の中学1年生は、入学式の記念撮影もなのまま、一人用の机が縦横4列に並んだ教室に案内された。出席番号順に席に着いたが1番が彼であった。その後実に58年余りも「兄弟」として過ごすこととなった。

この機会に、ほとんど知られていない彼のエピソードを紹介したいと思う。生前本人の口からこの

れた。これも又大きな人間愛だと
思う。言いつつも毎日慌ただしく
生活していると、俗世間の環境に
流され、なかなかこの様な事を考
える余裕がない自分がいる。

どこかの政党が言いました。
「国民の生活が第一」と。私も
「自分の生活が第一」と思っ
て行
動している様にしか見えない。

人生において第4コーナーを回
り始めた今日、今一度立ち返っ
て、2人の神父の偉大さを時には
ビール片手に回想するのも、好し
としようと思う今日今頃である。

件について話したことは皆無だった
ろうと想像するからである。

彼は修道士という身分で生涯を終
えたが、実を言うと自ら進んでその
道を選んだのではなかったのだ
。彼は本気で司祭を目指していた
のだ。学業成績も常にクラスの
平均以上であったし、人格面でも優
れていて仲間たちの尊敬を集めて
いた。私から見れば当然その方向で
問題ないと感じていた。そういう私
は、学校に保管されている昔の成績
表など見るまでもなく、彼より随分
成績は下の方だった。

16名の中学1年生は、高校卒業時
には7名となり、そのまま修練院に
入り、彼はアダムと命名され、私は
ダミアノと呼ばれた。外国人の修練
院長は、ABCで呼べる名前にした
かったらしい。アダム、ブルーノ、
カミロに続きダミアノである。

多少の遊び心があったとしても、
修練期そのものは真剣である。まる
1年の間で、自分の一生を修道者と
して生きるのか否かほぼ確定的な方
向を決めなければならぬ期間だか



故 アダム阿野勝見 修道士

らである。何事においても真面目に
取り組んでいた彼は、修練期を真剣
にとらえ、名前を呼ばれた時など
「はい！」と大きな声で返事し、相
手をしっかりと見つめていた。

ところが、大きな目をしていた彼
は、どうしたことか相手を睨みつけ
ていると誤解されてしまったらし
い。秋ごろになると何かにつけ彼に
は「償い」やら「ペナルティー」が
増えていった。外国人の特徴として
当時「一度思い込んだら少々のこと
があっても変えない。」と言われて
いたので、そんなことだろうと思っ
ていた。日取りも分からないまま、
誓願前の8日間の黙想会に入り、5
日目になってやっと誓願宣立者が知
らされた。しかし、その中に彼の名
前はなかった。
除外された理由を聞くことはな
かったが、「神学生としては認めな

い。」と宣言されたものと
思う。彼の修練期は「神学
生」であったので、修道士
として修道会に残るため、
2年間の志願期から始める
ことになり、小長井修道院
で出直すことになった。
黙想会の終わりに、指導
司祭だったヤノ・コーサ神
父は次のような話をした。

「神さまの前で尊いとされる人生
は、この世で華々しく活躍したり、
上に立つことではない。むしろ隠れ
た生活の中で人に仕えて生きること
である。」

彼の眼には、涙の跡があったが、
彼はこの言葉に励まされ支えられて
修道士として生きる決意を固めたも
のと思っている。そして、その言葉
を胸に秘めながらしっかりと神さまに
誓った生涯を貫き通したと、私は自
信を持って言うことが出来る。
アダムよ、君に出会えて良かつ
た。本当にありがとう！

—ダミアンより。—



学園だより



ナイツフェスティバルご協力のおかげ

隔年実施しております「ナイツフェスティバル」ですが、今年度
は9月16日(日)に開催いたします。皆様方の多数のご参加をお待
ちしております。また、左記のとおり献品を募集しておりますが、
献品が非常に少ない状況です。バザー収益向上のために、ご協力を
お願いいたします。

9月16日
Sunday
開催!!

★バザー用品募集

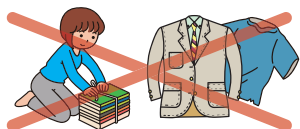
バザーに出品できる品(お中元、お歳暮、冠婚葬祭の引き
出物など)がありましたら、生徒会までご提供下さいますよ
う宜しくお願いいたします。

- ※受付期間は7月~9月中旬です。
- ※食料品など長期保存が出来ない物は直前にお送り下さい。
- ※古着、古本は在庫が多数ありますので、今回は募集しておりません。
- ※品物は、ご都合のよいときに学校までお持ちいただくか、「バザー用品」と明記の上、ご送付下さい。

〒850-0012 長崎市本河内2丁目2番2号
聖母の騎士高等学校 生徒会：飯田 友広
TEL:095-823-4523/FAX:095-823-4759



よろしく
お願いします。



※古着、古本は募集しておりません。



平成24年度、長崎高等学校校総合体育大会が6月1日(金)から始まりました。開会式は佐世保総合グラウンド陸上競技場で行われ、本校から副校長先生を団長として25名の生徒が参加し、66番目に行進しました。6月2日(土)から競技が開始され、剣道部とバドミントン部はともに諫早市で試合に臨みました。なお、今年は1年生の久留君が弓道の個人戦に出場しました。小学6年生から道場に通い、腕を磨いてきたようです。残念ながら上位進出はなりませんでしたが、威風堂々とした振る舞いがとてもかっこよかったです。

長崎県総合文化祭連合音楽会は5月20日(日)に長崎ブリックホール

で行われ、バグパイプ部が参加しました。

【剣道部】

剣道部顧問 廣島誠一郎

はじめに、同窓会の皆様からクラブ援助費をいただき、ありがとうございます。剣道部で有効に使わせていただきます。

本校剣道部員は3名。普段の稽古内容は基本打ちや応じ技の稽古がおもですが、学校が休みの土曜日には官公庁の大人の稽古会に参加し、また、県立長崎鶴洋高校に稽古をお願いするなど活動を行なっています。

3年生の和田真君は1年生の中頃に剣道部に入部し、今回の高総体まで約2年間稽古を積みました。2年生の藤龍平君は中学生の時に剣道を始め、今回の高総体が2回目。そして、2年生の永松海生君は剣道歴1年の初心者。永松君は今回2人の世話役として働いてもらいました。

試合結果をご報告します。

●個人戦 2回戦

3年 和田真 (面・面の2本負け)

対II大村工業・塚崎選手

和田君は2回戦からの出場でした。相手は大村工業の塚崎選手。1

回戦で鹿町工業の林選手を破って2回戦に進出した選手であり強い選手(塚崎選手は5回戦まで進出)でした。和田君は気迫面では負けておらず積極的に打ってはいましたが、試合経験が少ないため、奮戦むなしく面2本で敗退しました。しかし、2本目の面は相手とのほぼ同時の面であり、気迫が出ていればこそその技であり、敗退したとはいえ申し分のない試合内容であったと思います。剣道経験2年で相手と互角に戦えたとは、普段よく努力したからこそだと思います。

●個人戦 3回戦

3年 藤龍平 (面・胴の2本負け)

対II長崎日大・田中選手

藤君の相手は長崎日大の田中選手でしたが、彼は大会では常に上位に入る選手(今大会は6回戦進出 ベスト8)です。これまで藤君はいつも試合になると緊張し、また臆病になって自分の剣道ができないことが多かったのですが、今回の試合は面と胴で敗北はしたものの、強い選手を相手にさながら、積極的に攻めて前に出て打つ試合でした。特に最後に打たれた胴は、藤君が面に飛び込んだところを返し胴を打たれた状態であり、打たれ方としては悪くはな

かったと思います。今後は、試合の組み立て、互いの攻防のなかからいかにして有効打突を打つか、また、打突の早さと正確さなどを中心に稽古させたいと思います。

●総評

これからは2年生が2人になり、団体も組めない部活経営になります。2人の意欲が高く、稽古も真面目に取り組んでいます。ご支援をよろしく願います。

【バドミントン部】

バドミントン部顧問 飯田友広

●団体戦、1回戦敗退。

0-3 佐世保工業

●個人戦ダブルス

林田・松本組が1回戦敗退、高比良・河野組は1回戦勝利し、2回戦で敗退。

●個人戦シングルス

林田・高比良、松本の3選手ともに1回戦敗退。

林田 0-2 創成館

高比良 0-2 佐世保高専

松本 0-2 佐世保北

シード校との実力差を思いしらさ

れた団体戦、惜しい試合が多かった個人戦でした。

今年度の高総体は、団体戦1回戦で佐世保工業と対戦し、0対3で敗退しました。相手は第3シードの強敵でしたが、予想以上に完敗しました。第1ダブルスの高比良&大串は、打球も動くスピードも相手が上回り、相手のミス以外ではなかなか点数を奪えませんでした。第2ダブルスの林田・松本は、1ゲーム目の中盤から仕掛けていきましたが、打球の種類・コースを読まれて嵌り、一方的な展開になって惨敗でした。第1シングルの河野は、つないで粘って健闘しましたが、相手の多彩な攻撃に屈しました。



戦を突破しました。いつも通りにプレーすれば安心して見られたのですが、コートの中で1人だけ勝ちたい気持ちが強すぎて動きが悪くてミスが多く。

練習で攻撃型ダブルスやレシーブの強化、粘り強いシングルスなどができるようになりました。そして、社会人の大会に多々出場して試合の経験値を上げてきました。しかし、高総体や社会人の大会で、気持ちのコントロールが必要だと痛感しました。勝ちたい気持ちから力が入ってミスすることがないように、指導を重ねていきたいと思っています。なかなか結果が出ませんが、卒業生の練習参加を含め、これからもご支援をよろしく願います。

聖コルベ志願院の紹介



聖母の騎士高校に隣接する聖コルベ志願院(小神学校)の一日は、朝6時のチャイムから始まります。一般寮生と神学生がともに生活する志願院では御ミサやお祈り、共同生活を大切にしています。現在神学生2名(写真中央前列)、一般寮生6名が在寮しており、「トウギャザーしようぜー」をテーマに、人数的には少ないですが家族的な交わりの中で、コルベ神父様の精神を引き継ぎながら、それぞれの夢に向かって一生懸命頑張っています。引き続き聖コルベ志願院の学生たちのために応援とお祈りをよろしく願います。

「バグパイプ部」

バグパイプ部顧問 熊川武俊

バグパイプ部は、5月20日(日)に、全国高文祭長崎プレ大会に出演しました。会場は、長崎で一番立派なホール「ブリックホール」で、昨年同様、本番演奏に加え、オープンニング演奏も任せられました。相変わらず少人数のクラブですが、迫力満点の音量で観客の皆様方に僅かながら

も感動を与えることが出来たのではないかと思います。演奏後には、「これで文化!」、「久しぶりに涙が出た。」など、嬉しいコメントを頂きました。来年は、全国総文祭が長崎で開催されます。バグパイプ部は、器楽・管弦楽部門でのオープンニング演奏が決定しており、また、総合開会式でも演奏が予定されています。あと1年後に向けて、頑張る練習に励みたいと思っています



第13回定期学園劇公演を開催しました

本校の特色の一つである「宗教劇」を隔年度に実施しておりますが、平成23年11月16日(水)に、ものがたり『アシジの聖フランシスコ』を昼と夜の2回、上演しました。今回は、幼稚園児にも分かるようにやさしい表現も用いられ、オオカミのぬいぐるみも登場するなど、幅広い年齢層で楽しめるように演出されていました。生徒達は短い練習期間にもかかわらず、一杯の演技を見せ、観劇した多くの方から「よかった」「感動したよ」と言葉をかけられました。彼らの表情はやり遂げたという達成感と自信に満ちあふれ輝いていました。次の感想文は、主役を見事に務めた、「コルベ志願院生の森田太郎君の感想文です。



「学園劇に参加して」

私は昨年、学園劇に主役として参加させていただいた。主役になることは、何ヶ月も前に校長先生から言われていた。主役を頼まれたとき「私なんかができるだろうか」とすぐ心配になった。というのも、私は人前で話すのが苦手でかなり緊張してしまうから。しかし、私はよい機会になると思っていてやることにした。

劇の練習はとてつらいもので、特に泣く演技をするのがとても恥ずかしくて、できることならやりたくないと思っていた。

本番当日、楽屋では皆緊張していたが、おそらく私が一番緊張して焦っていたようだ。緊張しすぎて、ろくにご飯も食べられなかった。緊張の中で始

まった本番は大成功のうちに幕を閉じた。本番までずーと緊張していたのに、本番が始まるとさっきまであった緊張感がすっかり消えていた。練習の時は恥ずかしいなあと思っていたが、入った演技をすることができた。多少嫌々やっていた主役も本番終了後は達成感に満ちていた。

本番終了後、多くの人から「良かったよ」と声をかけていただいた。中には感動して涙している方もいらっしやう。それを見て私は、自分たちの演技は人を泣かせるだけの力があつたんだと実感した。この劇をするにあたって校長先生が「絶対にいい機会になる」とおっしゃっていたが、本当に最高の機会を与えていただいた。学園劇に参加して本当に良かった。

生徒募集

母校で、ご子息を学ばせてみませんか。

■一般生

- ★1学年1クラスの少人数教育。
- ★学力が高い生徒のために進学コースを設置。実力をアップして上級学校への進学を目指します。
 - 1 年生:「センター試験対策コース」
 - 2・3年生:「国公立大学進学コース」

■神学生(聖コルベ志願院 ☎095-828-0541)

- ★コンベンツアル聖フランシスコ会の神父を目指します。祈りに始まり祈りに終わる生活で信仰を深め、キリスト教指導者になるための知識・教養を身につけます。
- ★高校卒業後は一般の大学で神学以外の専門知識を身につけた後、上智大学神学部へ編入して司祭を目指します。このため高い教養を身につけることが要求されます。
- ★神学生の授業料・生活費は修道会より支給されます。

■校内特待生制度

- ★成績優秀な生徒には特待生制度により奨励金を支給しています。

オープンスクールを開催します。
9月29日 土曜日
お気軽にご来校ください。

※学校見学会は以下の日程で行います。
10月6日、10月20日、11月17日

寮完備

県内外を問わず広く一般生徒のために寮を完備しています。規則正しい生活の中で、秩序と和を学びます。毎日の食事は、専門の業者による栄養管理のもとで提供されます。

聖母の騎士高等学校

長崎市本河内2-2-2 ☎095-823-4523
ホームページ <http://www.seibonokishi-2008.jp/>



各地区からの お便り



「長崎便り」

日本二十六聖人 列聖一五〇周年 記念事業

巡礼所の除幕式と椿の植樹式

同窓生全面的に協力!

長崎市在住 木場田友次

1597年2月5日(慶長元年12月19日)、長崎・西坂において殉教した「パウロ三木と同志殉教者」と呼ばれた26殉教者が、1862(文久二)年6月8日に教皇福者ピオ九世によって列聖されてから、今年でちょうど150年になる。

この節目の年に当たり、同窓生の大御所的存在である水浦久之氏が、26聖人に所縁のある椿の木を殉教の地・西坂公園内に「長崎大司教区主催」で植樹するように、高見大司教に直接会って要請するので、同席してくれ、と電話が私に入った。

26殉教者と椿の関係を説明する

と、殉教者たちの十字架の跡にキリシタン達が椿の木を植え、椿の五弁の花をキリストの五つの御傷に見立て、十字架をイメージし、椿の赤い花に殉教者たちが流した血に想いを寄せ、信仰の拠りどころにしたと伝えられている。

それを証明するかのように五島列島の多くの教会内部装飾は、椿の花をあしらっている。長崎の外海地区には、バスチャンが椿の大木に十字架を遺したという言い伝えがある。潜伏キリシタン達は、葬式の折には棺の中にその椿の木片をそっと忍ば



▲日本二十六聖人殉教者列聖150周年記念式典
(「日本カトリック長崎・西坂巡礼所」銘板除幕式・椿の植樹祭 2012.6.10)



せたと言われている。

26聖人記念館の「栄光の間」に設置されている椿の花のステンドガラスは圧巻である。以上の理由により、椿の木26本を西坂の殉教の地に植樹したい旨を高見大司教に進言したところ、長崎大司教区主催の行事として取り組むことになり、私が責任者となった。

広い公園内に26本、椿を植樹するのはたやすいことだろうと、安易に考えていたところ、植樹の許可を取る段階になると、様々の困難が立ち

はだかった。記念館長のレンゾ神父様と長崎市役所に書類を提出すること十数回。疲労困憊している時、大きな支えとなったのが信徒の市議会議員だった。植樹の許可の後、椿の木選定の際、重大な役割を果たした人物がいた。同窓会の前会長、窄口富行氏と会計の赤尾城司氏で、彼ら

の人脈を辿って行着いた「椿商」はなんと日本でも指折りの植木職人で、色々な事業を展開する「(株)舞椿」の中山社長でした。事の次第を話すと、初対面にもかかわらず、必要な椿の木を全部寄付して下さいという。それも指折りの銘木ばかり、嬉しさのあまり体が震えた。内心、26聖人のお取り次ぎかもしれないと感じた。

椿の植樹を終え、ほっとするのも束の間、高見大司教から更なる難問がメールで届いた。西坂の殉教地が6月8日、「日本カトリック司教協議会」から、日本で初の巡礼所「日本カトリック長崎・西坂巡礼所」として指定されますので、26聖人のレリーフの側に巡礼所の銘板を設置したいので、是非協力して下さいと書き込んであった。

公園内に宗教色の銘板の設置はご

法度。そこで館長のレンゾ神父様と、銘板設置がダメなら既存の大岩に文字を印字しようと話し合い、許可申請書を長崎市に提出したところ、法の盲点を突いた申請書に、よく考えましたねと言いながら書類を受理し数日後、申請許可が下りた。この時も信徒の県会議員が大きく後押ししてくれた。

式当日の6月10日、早朝から式典準備のために、数名の若き同窓生が汗を流した。仕事の関係で参加でき

〜関東支部便り〜 関東支部事務局 だより

関東支部 徳永義雄

昨年(2011年)の6月の年次総会にて役員改選が行われ、支部長が私の同級の池田健二君に、歴代の会長さん方に顧問になっていただき、事務局の係を私・徳永が仰せつかったから早一年がたちました。就任後の主な行事は後記のとおりです。

◎平成23年6月25日(6月最終土曜日) 関町修道院にて23年度関東支部総会を開催。

◎平成23年7月15日、千葉・市原ゴルフクラブにて同窓会有志によ

なかつた数名の同窓生は高額の寄付で協力した。415年前の殉教を語り継ぐ、長崎教区の世紀に残る一大イベントは同窓生の全面的協力で閉幕した。一連の行事に関わる中で、同窓生の底力に感服した。

7名の司教を従え、司式を執ったジョゼフ・チェノツトウ駐日法王庁大使は約300名の参加者に向かい「この殉教地が、訪れる人々に希望を与え、愛を育む巡礼所となりますように」と呼びかけ、祈りを捧げた。

る親睦ゴルフコンペ

◎平成23年10月8日、長崎本部の総会に関東支部を代表して徳永が参加

◎平成23年11月26日(11月最終土曜日) 赤羽教会にてグレゴリアンによる死者ミサ

◎平成24年3月10日、赤羽教会にて聖職者の為の死者ミサ

◎平成24年6月30日(6月最終土曜日) 赤羽教会にて24年度関東支部総会を開催

私が長崎の総会に出席してから、本部にて管理している同窓生名簿を送っていただきその名簿とすでに関東支部で管理していた名簿を合わせて、皆さんに行事の際に送ってきましたが、今年度の総会に際しては83

通の手紙に返信用のハガキを入れ総会の案内状を出しました。その内3通が宛先不明で返却され、又届いたものの中にはすでに天国に召された方がお二人いらっしゃいました。訃報を知りえなかつたことは残念ですが、お知らせをお送りしていた事を申し訳なく思っています。

また、今後の案内状の送付を遠慮したい旨の方がお一人いらっしゃいました。『勤め先の都合上なかなか参加できないので。』という理由で加のハガキをいただきました。(天国に召されたお二人を含む)

今回の総会には23名の方に参加いただき、その後の懇親会は思い思いのお酒類やケーキの差し入れもあり、母校の校歌などを歌い、大いに盛り上がり楽しい懇親会となりました。懇親会に先だち、教会での感謝のミサには再任された崎濱管区長様に司式をしていただき管区長様の任期をつつがなくまっとうされ、フライングスコ会の日本管区及び当同窓会の発展を共に祈りました。

また、管区長様には懇親会の席で長崎の聖母の騎士学園の現状のお話も受けたまわりました。優秀な生徒の皆さんが勉学に励み、一流大学に進学しているのを頼もしくうかがい

ました。

今回の総会・懇親会にはつたない事務局をいつも暖かく見守って下さるいつもの常連のメンバーの出席者の他に、昭和58年高等学校卒業の方が初参加してくださいました。一人でも多くの参加を呼びかけている事務局としては大変うれしく案内状を出した甲斐があり、とても若い新鮮な感じがしました。

母校は我々の神学校時代から一般校と変わっていますが、同じ学び舎に入学又卒業したことには変わりはないはずですが。同窓会を通してお互いの絆が深まればと思います。



「関東支部便り」

「東日本大震災」 支援活動に係わって

関東支部 松田二次夫

2011年3月11日、突然襲ってきた大災害「東日本大震災」は、関東、東北沿岸のすべてを一瞬にして押し流し去ってしまった。追いかけて、東京電力福島第一原子力発電所事故は、周辺住民のみならず国内外に大きな衝撃を与えた。

震災直後、さいたま教区では、3月21日に叙階されたばかりの助祭、神学生を派遣し、いわき市湯本教会の司祭館を拝借し支援ステーションを立ち上げた。地震により教会は破壊されたものの、辛うじて司祭館は無事だった。ここを拠点に司祭、修

道者、信徒のボランティアを派遣し、被災地の瓦礫の撤去、物品の調達分配、傾聴活動に奔走した。

4月初旬、長年カリタスさいたまの事務局に携わっている私は、谷司教様に茨城県日立市から国道6号を北上し福島久ノ浜まで現地視察に行かせていただいた。

国道は砂浜と化し、松並木はなぎ倒され、海岸には漁船が打ち上げられて重なり、建物は土台を残して流された様子を見て愕然とした。

12月末には、特注の本場フィンランドから届いた建築材のログハウスが完成し、2012年正月早々支援ステーション「もみの木」が新拠点となる。

「もみの木」と道路の向かいに建てられた1200戸の仮設住宅には、原発が立地する双葉町、大熊

町、30キロメートル圏内の常盤富岡、楢木町の住民が移住しており、津波によって先祖代々の土地を離れた人々と、原発事故によって帰還の希望が持てない人々たちの間に微妙な問題が多く、訪問活動も岐路に立たされている。

「もみの木」を訪れる仮設住宅の方々のために、コーヒー、茶菓子を提供し、ミニコンサート、手芸、料理教室などの傍ら傾聴活動を続けている。子供の広場では、宿題を持ち込む子、ピアノに夢中の子供たちの明るい声が絶えない。

私は、被災地へのボランティアの派遣、イベント企画に微力ながら携われることを感謝している。

.....

「関東支部便り」

年金生活と 教会活動

関東支部 山野尊行

紆余曲折の末、年金生活を始めて8年目に入りました。40年間お世話になった海運業界の皆さんとは一別したつもりですが、今なおゴルフだ懇親会だとの誘いがあり、年に10回前後のお付き合いが続いています。

しかし内心では教会に再就職したつもりで、身体を動かせる間は教会活動を最優先させようと決心しています。私がこのような考え方をするのはやはり10代の頃、聖母の騎士小神学校で培った精神が血となり肉となつて残っているのではと思つています。

私は、約40年ほど前、横浜教区の小教区としてスタートした川崎の鷺沼教会（サレジオ会―主任司祭、松尾貢神父、浦上出身）にお世話になっていました。信徒数も最初は100名ほどでしたが今は2200名に膨れ上がり、何回か増改築を繰り返してきた教会も10年後の新築を目指して募金を開始しています。献堂式に与るまでは元気でいたいと願っています。

この教会の活動はとても活発で各種典礼式典、福音宣教活動、各種ボランティア、蚤の市・バザー・コンサート等のチャリティ行事ほか、色々なイベントが行われており私も出来るだけ参加するように努めています。ここでの私の担当は聖体奉仕、聖歌隊員、福音宣教委員、壮年会（ドン・ボスコ会）での典礼とサレジオ会関東6教会との連絡員及び教会清掃員等です。

鷺沼教会とは別に田園調布教会



▲3月11日の東日本大震災で破壊された、福島県久ノ浜の光景。漁船が打ち上げられ、魚市場は跡形もなく再開のめどさえつかない。右奥の山の崩落は津波のすごさの跡。



▲2011年12月28日に開所された、いわきサポートセンター「もみの木」

(フランスシスコ会、主任は竹内正美神父・上五島出身・信徒3500名―終戦後ゼノさんが上京して最初に目を付けた、皇居前広場の土地確保には失敗したものの赤羽や王子の土地を購入するために数カ月滞在してお世話になった教会)で年に2〜3回のチャリティ・コンサートのため毎月2〜3回ラテン語、英語及び難しいドイツ語等の合唱の練習をしています。この他、東京教区ニュースやカトリック新聞等でイベントの情報やチェックしながら東京カテドラル、イグナチオ、高輪、上野毛、サレジオ会の各教会、山手、菊名、大船、鶴見、藤沢、鎌倉雪の下教会等々での叙階式、荘厳ミサ、記念ミサ、黙想会、講演会等に努めて参加するようにしています。

ユニークなイベントとしては年2回春秋に神奈川県茅ヶ崎教会に長崎県出身司祭をお迎えして(今春はこれらの崎濱宏美管区長をお迎えしました)聖母の騎士同窓生7〜8名を含めた30〜40名が参加しての行事、長崎県人会(ミサと懇親会)と毎年11月最終土曜日午後赤羽教会で聖母の騎士同窓生が中心となってグレゴリオ聖歌による追悼ミサが開催されてまして、年中同窓会に参加しているような錯覚をすることもあります。

2008年に現在仁川教会にいらっしゃる水浦征男神父様が新宿文化センターと横浜市民ギャラリーでゼノ修道士写真展を開催した際私は聖母の騎士同窓生や鷺沼教会の信者と共にお手伝いを致しました。その事実を掴んだ、松尾貢神父様と片柳弘史神父様(イエズス会、六甲教会司祭)指導のマザー・テレサ写真展を川崎の溝の口と横浜のあざみ野で2010〜2012年に計3回開催した時に、エキスパートでも写真、絵画展示の心得もない私が会場探しから搬入展示、搬出撤去作業の指揮担当をさせられました。

またその流れでゼノ修道士写真展をご覧になった聖マリアンナ医科大学病院の前チャプレン福田誠二神父様(フランスシスコ会、聖母の騎士社に3度ご自分の研究書籍の印刷依頼をされました。尚今春よりチャプレンは大阪教区司祭で、たかとり教会よりお出でになった元聖トマス大学々長の小田武彦神父に変わりました)に依頼され病院小聖堂のギャラリーでカトリック美術協会(会長岡田武夫大司教)を中心とした芸術家の皆様より絵画、写真(ゼノさんの写真も3回お借りしました)等をお借りして病に苦しむ患者やご家族の心を慰め励ますために2ヶ月に一度

作品を取り替えながら今に至るまで展示会を継続しその担当をさせられる羽目になりました。

2〜3年前まで聖母の騎士誌に寄稿して下さっていたカプチン会のペトロ・ボン・エッセン神父様とも老人ホーム訪問などのお手伝いをすることもあります。

ペトロ神父様は昨年9月16日に80歳の誕生日を迎えられ私が音頭を取って神父様の活動を支援している

20数名の御婦人達を集めて東京二子玉川で食事会をしました。彼は健康維持のため80歳の今も毎日ランニングをしているそうです。見習いたいと思います。

日々忙しくても心を亡くさないように気を付けて、神に頂いた年金生活のお恵みに感謝の気持ちで、教会活動をして残された僅かな人生を神にお捧げし、み旨に従って行けるよう心がけたいと願っています。

奄美支部便り

長崎の街で、また会おう



奄美支部 大石睦人

2010年の夏、母校を卒業して27年の時を経て長崎駅へ、同じ奄美の同級生である山田光人君と共に降り立った。立派な駅ビルが出来ていて、二人が中学入学の為に同じ駅に着いた時とはまるで別物のような感じであった。駅の改札を通り、誰かが迎えに来てくれているはずだと思つて周囲に目をやると、竹口幸雄君が来ていてくれた。「おー、久しぶり。元気か?」と握手して、お互いの変わりように目を白黒させ

た。竹口君と私は、中学でも小さい方で、たぶん1メートル30センチをちょっと超えるくらいだったと思う。握手した彼の手は、とても小さくてビックリした。立派な働く男の手をしていた。彼の車で私たち3人は、聖母の騎士へ向かった。

本河内教会で、その他の同級生とも再会し、それぞれの変身ぶりに目を見張った。それぞれ、中年のオヤジの体型で、「お前変わったな、いや、お前の方こそだ」との会話があちこちで交わされた。そして、我がクラスで唯一神父になった、岩崎君によるミサが行われた。ミサと、簡単な茶話会をした。高校1年と3年の時に担任してくださった橋本先生も奥様と揃って来てくださった。先生もだいたいぶ年を取られたなと思つた

2011 nendo
奄美支部の
活動この1年
AMAMI SHIBU

●総会

平成23年5月29日 日

大笠利教会、信徒会館で総会を行う。

午後1時30分から、大笠利教会の信徒会館にて。
前年度の事業報告、決算報告、監査報告、予算の承認。
役員の変更については、以下の通り決定し全員の就任承諾を確認した。
会長：近藤芳弥、副会長：栄 隆之。
他の役員は留任、前会長の久保聖一は、顧問に就任する。

●物故者

同窓会奄美支部から香典をお届けし、ご冥福をお祈りしました。

平成23年 6月 故 山田 五郎 様 山田 誠さんの お父様。
平成23年11月 故 白石 洋一 様 白石信録さんの お父様。
平成24年 2月 故 安田 エミ 様 安田 誠さん、克洋さん、清吾さん、
このご兄弟のお母様。

●命日記念ミサ

平成23年3月4日 日 古田町マリア教会にて。

ゼローム神父 2003年3月19日 帰天
ラファエル森井実 修道士 1983年3月 4日 帰天
川瀨 明 神父 10年忌 2002年2月14日 帰天

●聖コルベ記念ミサ

平成23年8月14日 日

マリア教会で同窓会奄美支部主催の記念ミサ。



学校の創立者が聖人、これは最高の恵みであり誇りです。



川瀨明神父は、かつてラファエルさんの葬儀のときに、当時の奄美大島管区長として、尽力されました。今年は、10周年にあたり、命日ミサの中で感謝の祈りをお奉げしました。



ミサ後にゼローム館でお茶会



沖縄から山田博信が特別参加して、乾杯のご発声を。(前列右から二人目)



●草刈の奉仕作業 (赤尾木)

平成23年6月5日 日

いつでも喜んで犠牲と奉仕を …… 聖母の騎士の基本。



希望の星学園での作業、猛暑との戦いに苦戦した。

↑田下幸次 完成されたスタイルは実に美しい！
↑山田 明

ハブが出没するエリアだから、とても危険。より丁寧に作業をすすめました。

●チャリティーバザー

平成23年11月27日 日
聖母の騎士学園奨学基金のために奉仕活動。
浦上カトリック教会にて。



※今年には保健所から食品関係の販売中止要請があり、メインの（は）るが巻（が）が差し止められた。売上げは落ち込んだが、奨学基金への支援活動は継続している。



柳本神父、配山、池田、栄、久保、松永神父、恵夫妻、増根、田下

●奄美で再会した同級生たち

奄美を出て45～50年が過ぎたが、いつまでも懐かしい顔です。



安田孝春、池田尚志、大茂卓郎、安田 誠



田下、小原秀則、奥田信録



安田克洋、久保聖一



恵幸一郎宅で歓迎会

●アダム阿野先生に 大感謝

当時ほとんどの学生たちがお世話になりました。病と闘う阿野先生に感謝の言葉をお伝えしたい。各自の言葉はいつしか感謝の祈りへと変わった。阿野先生、元気になって欲しい、一日でも早く。是非もう一度、元気な姿でお会いしたい。心からの声は、東長崎の阿野先生へお届けされた。いつも私たちを天国から優しく見守っておられる。聖コルベの意思を忘れないで欲しいと……



阿野先生への感謝の言葉をCDに収録した。田下が長崎へ赴き、大石(同窓会)会長と共に療養中の東長崎の修道院を訪ね、このCDを渡すことができた。ここで、一部を紹介する。(敬称略)



長崎の葬儀に合わせ、マリア教会でも感謝のミサをお捧げした

- 早く元気になられて、奄美にも来てください。Y. セイチロウ
- 奄美に戻って10年になります、神学校時代が懐かしいです。阿野先生と出会えたことが幸せです。K. トオル
- 阿野先生とは短い間でしたが、お世話になりました。T. タダキ
- 自分が指導者の立場になって、ようやく阿野先生の教えが解りました。有難うございました。O. タケシ
- 長崎を出てからも、阿野先生には大変お世話になりました。感謝しています。T. マサト
- 一日も早くお元気になりますように。Y. アキラ
- 兄弟の兄貴の方です、奄美におります、来年の同窓会でお会いできますように。H. ナオユキ
- 一級下のクラスにおりました、ブンリュウです。一日も早い回復をお祈りしています。O. フミタカ
- 卒業式をぶち壊すような迷惑をお掛けして申し訳ありません、どうぞお元気になりますように。O. シンロク
- 奄美に戻って30年です、アダムさんには、随分お世話になりました。神様の御旨のままにお祈りを続けています。Y. タカハル
- 面倒かけた教え子たちの精一杯の感謝の言葉を、ささやかな祈りとしてCDにまとめました。T. ミサオ
- 寮長としてお世話になりました。走る姿の阿野先生が懐かしいです。奄美空港で働いています。元気になられて下さい。Y. マコト
- 50歳になりました、障害者福祉施設を経営しています。いつもお顔を思い出し、阿野先生の遺志を引き継いでやっています。E. リウイチロウ
- 阿野先生、元気なさそうですが？ 奄美でお待ちしております、お会いしたいです。M. ソウハチロウ
- 24年前卒業しました、老人ホームで介護福祉士をしています。また会える日を楽しみにしています。S. タカユキ
- 昭和31年生まれです、七名の子供がいます、阿野先生に言われましたが、一人も神学校に出せなかったことが悔しいです。すみません。K. ヨシヤ
- 航空整備士です、兄貴的な阿野先生の早朝ランニングが一番の思い出です、またお元気な姿でお会いしたい。Y. ミツヒト
- 阿野さんが、教会や神学校、小長井の施設で目立たないように頑張っておられた姿が印象的です。神様のご加護をお祈りしています。I. ナオシ
- 看護師と臨床工学士をしています。寮で酒を飲んで、阿野先生に叱られたことが今に繋がっています、とても有難く思っています。M. ヤスユキ
- 44歳になりました。介護施設で仕事をしています。寮で叱られたことが懐かしいです、お祈りしています。Y. セイゴ



が、私たちの中で、早く結婚をしたものは、大学生の子供がいたりするのだから、先生もきつとお孫さんも居られたりするのであろう。

その後、長崎市内を見下ろせる宴会場での懇親会、十数名いたであろうか、乾杯の後、一人ずつ近況報告。みんな、それぞれの土地で立派に頑張っている。面白いのは、高校時代にヤンチャだった連中が、非喫煙者になってるのに、元神学生などの真面目だった者に喫煙者の多いこと。人間、変わるものである。今回の同窓会をセッティングしてくれた、長崎在住の、本田辰美君には、みんな感謝していた。二次会は、彼の行きつけの居酒屋へと流れ、三次会は、カラオケボックスへ。最後に、今回のような集いを定期的に持とうと言う声が各自から上がり、毎年やりたいという者や、数年ごとの開催をしようと言う者もいた。私たちの2年先輩たちは、4年に1回、サッカーのワールドカップの年毎に集まっているらしいので、私は、彼らと同じようにしてはどうだろうかと言った。私としては、場所も、やはり、長崎で4年ごとに集った方が、みんなも集まりやすいのではないかとも思う。とりあえず、その時には、来年に奄美でやろうというこ

とで話は決まったが、結局、奄美では開催ができなかった。やはり、4年に一度でというのが、経済的にも最適ではないかと思う。

今回は、急遽、長崎に集まり、飲んで、翌日には各自帰ったので、やはり、長崎に集まって、懐かしい思い出の街を散策する時間も持てたら良いかと思う。是非、次回は、2014年、ブラジルでのワールドカップの年に集えたらと思っている。

奄美支部便り

奄美の自然の息吹と奄美の心をもとめて

奄美支部 池田尚志



奄美は梅雨の季節を迎えて、島の山すそには春の緑葉から初夏の青葉のなかに、白いこもりとしたイジユの花が咲き、サネンの花が雨にぬれて、うす紅色の輝きを増し、海紅豆の花が赤くあざやかな姿を見せています。

私も、65歳になり、鹿児島から故郷の名瀬に帰って、13年間働いていた浄水場の夜間施設管理の仕事を平成24年4月24日付にて退職しまし

た。名瀬では、母と叔父が、米屋を営んでおり、その仕事の手伝いや、自給自足をめざして、名瀬の山すそにて畑を耕し、ニワトリを五羽飼っています。神学校在学中(中学1年〜高校1年)に絵を描くことに心ひかれ、福岡の大学を出た後、どうしても絵を描きたくて、武蔵野美術学園の油絵の教室に入り、二年程勉強しました。

その当時、武蔵野美術学園の門の前で、偶然にも、神学校の時の同級生で、親しくしていた山下和稔君と出会い、「お互い、こんな所で出会うなんて」と本当に驚いたものです。彼は彫刻の勉強に来ていたとのことでした。

長崎での多感な中学生の時に見た風景は、今も、私の心の中に残っており、特に秋の頃、彦山の麓の畑のすみに植えられていた柿木の実が、赤く熟れている風景は忘れられませんが、今は、奄美の生命力にあふれた、海、山、空の、自然の息吹にふれて、それらの持つ何かを、いかにしたら油絵や水彩にて、画面の中に定着できるかという課題にむかって、日々筆をとっています。又、奄美の風土に培われた、奄美の先祖の人々が、育んできた奄美の心いかに感受し、それを少しでも画面に表



現できればと願っています。奄美の心、それはトウトガナシの心(畏敬の心)、キヨラの心(美を求める心)、ホウラシャン心(明るい心)、カナシャン心(愛に満ちた心)だと思います。

奄美にて、奄美の人々によりそい、奄美の人々と共に生活された人として、ゼローム神父様がおられます。ゼローム神父様は、アメリカ人でありながら私達より島言葉を話し、誰に対してもやさしく、人を包みこむ大きさがありました。神父様のことで私が強く印象に残っていることは、私が会社の休みで、名瀬に帰省したおり、御神山(おがみやま)からのスケッチの帰り、ちょうど御神山の登り口で、神父様と出合います。その時、「尚志、今なにをしているのですか?」とたずねられたので、絵を描いていますと答えると、「絵を描くことは、修道者と同じだからがんばりなさい」と、励まされたことを思い出します。

今は福祉の時代だといわれますが、それ以前の時代に障害を持つている子供や、身寄りのない子供達がいる、その親やそれに関係する人々が困り、悩んでいる時、そのような人々によりそい、その人々が安心して住むことができる施設づくりのため、ゼローム神父様は、アメリカまで行かれて、資金を集められ、希望の星学園や白百合の寮を設立されました。そこには長い歴史と、伝統に培われたキリストの愛の心にもとづいた信仰の力が、あったと思います。又、1950年から1980年にかけて、作家の島尾敏雄氏のご家族は、ゼローム神父様の司式される御ミサにあずかっておられ、御子息の島尾伸三氏は、この当時のごことを、名だたる音楽家たちの磨きあげられたミサ曲の演奏も、音響効果の優れた大聖堂での御ミサも、天使が舞い降りたと絶賛されるヨーロッパの聖歌隊の歌声のミサも、ゼローム神父様のラテン語によるグレゴリアンのミサの荘厳さに勝るものが、この世にあるでしょうかと、書かれています。ゼローム神父様の御ミサにおけるイエズス様に献げる畏敬の心の深さを強く感じさせられます。

今の時代、価値観の多様化とマスメディアによる情報の氾濫により、なにかと心おちつかない状況にあります。こんな時こそ、静かに自分と向きあう時が、求められているようです。

私自身、今日までをふり返ってみると、私がどうか、ここまでやってこれたのも、親、先生、友人、知人をはじめ多くの人々の助けと励ましのおかげであります。今までのことを大切にしながら、新たな気持ちで地道に歩いていければと思っています。

〜奄美支部便り〜 祈り

奄美支部 田下三佐男

(わざわざ奄美から来タト〜?)
(ハイ、アダムさんに、
直接お礼を申し上げるために、
遅くなりました……)

11月の土曜日、鹿児島で親戚の結婚式があった。午後3時を過ぎたあたり、頃合いを見てホテルを抜け出し、近くの高速度バスの乗り場に急いだ。福岡行きに乗り、途中の鳥栖で乗り換えて長崎まで。

運悪く九州自動車道が事故で20分程渋滞したが、そこを抜けるとこんな走りアリかと思うほど大型バスで

のカーレース状態、もう、鳥栖の乗り換えは間に合わない諦めかけていたが、さすが運転手、お客優先、安全運転? ぎりぎりでも乗り換えに間に合った。(ありがとう、やりますね〜) 運転手が苦笑いした。

9時半ごろ、駅近くのホテルにチェックインして部屋に荷物を置き外に出た。裏通りを駅方面へ歩いて行くと、ちゃんぽんの店があった。迷わず中に入り並を注文して頂いた。まいろう〜! と叫びたいほど旨かった。ホテルに戻ってサットン(大石会長)に電話した。(明日は、仕事バツテン、6時半の本河内のミサに行くケン、6時にホテル前で待ットカンネ)。こうして日曜日の朝、ミサから行動を開始した。ミサ後、東長崎に移動した。修道院の玄関で応対された神父が、聞いてきますと奥に行き、すぐにお会いしたい

からと戻ってきた。遠慮なく上りこんで、部屋に通された。

かすれた声だがはっきりと聞こえた。(オー田下くん、どげんしたと〜?) 寝たきりの阿野先生。

朝の7時半ごろのことである、目をしっかりと見開いて、意識もはっきりしておられた。もともと太っていない方ではないので、その痩せ方は異常でかなりシヨックであった。奄美出身者たちの名前を、つぎつぎと思いついては、(彼は、どうして? 元気にシトット〜)。自分の呼吸が厳しい状態であることを忘れて心配して下さっている。

これ以上疲れてはと、こちらで勝手にドクターストップをかけ、お別れを言った。細くなったその手を握り、しばらく見詰め合った。昔のような力強さはない。こちらが力抜くと滑り落ちそうであった。お互いの目は少し潤んでいる。

握った手に力をこめて……(アダムさん、なにも出来ませんが、お祈りを続けていますから……) 軽くうなずかれた。その時である、目の前にいるアダムさんとはまったく違う、不思議な別の雰囲気を感じた。握った手にもうひとつの手を重ねて(有難うございました。奄美のみんなによりよく伝えますから)。





まだまだ、話し足りない様子ではあったが、奄美から準備してきたお見舞いのCDを机にそっと置き、部屋を出た。長崎駅まで送って頂き、福岡行きのバスに乗り、途中乗り換えて鹿児島に戻った。

〜沖縄便り〜 お一人の存在

平成2年度卒業 石垣市 上原太郎

石垣島の小学校を卒業した後、阿野先生と山下神父様のもと6年間を過ごした長崎の地、聖母の騎士学園は、私にとって確実に心の故郷である。

長崎の地を離れて22年……、今でも時折目が覚めると、起床時間であった朝6時15分を確認し、寮でのせわしい目覚めと重たいラジオ体操

5年生存率30%のガン患者の私
が、すでに10年も生き延びてきた。医学ではうまく説明が出来ない。以前にも、病人を見舞ったときに不思議な感じを覚えたことがあった。この10年は、いろんな病人たちと出会うために準備されたのだろうか？それは、その人を通して何か大切なもの、私が必要なものでなく、私にとって必要なものを伝えるために……。今は、何か不思議な感じがした、としか説明できない。

然に「祈り」をタイトルにして印刷していた。今回はどうやら、アダムさんと直接出会うことによって、祈りの大切さをも一度よく考えるように、とのメッセージを受けたものと理解した。5月（ロザリオの月）は毎晩近くの教会に出かけた。周りにはほとんどが年寄りである。ペールの後姿からも、本当の祈りはどうあるべきか、しっかりとメッセージが出されていた。今のような深い深い信者から、少しは信じる、信じて祈る信者へと変わるために……。

ことは、この機会に多くの聖母の騎士に特に大きな声で伝えておきたいことである。子どもから大人へと向かう思春期のヤマングウ達を一手に背負い、一人ひとりに常に真正面からいてねいに関わってくださいとお二人の存在は、時が経つにつれ、年を重ねる毎に大きくなっていくようにすら感じる。

アダム阿野先生、大感謝です！どうか私たちのためにも聖母への取次ぎをお祈り下さい。

現在の私は、素敵な伴侶と小学2年生の長男と幼稚園に通う4歳の次男に恵まれ、幸せな日々を過ごしている。最近、二人の子ども達がいるいろいろなことに興味を持ち始めてきたということもあり、これからは長崎での思い出話を機会あるごとに伝えていきたいと考えている。

がフラッシュバックすることがある。うまうまいかない日、気分が晴れない日が続くと、無意識に目を閉じお祈りしている自分に気づく……。そうすると、なぜか山下神父様の姿が頭に浮かび、なんとなく元気が出てくることがいまだにある。土曜日の夕食後の長い休憩時間は、週に一度の外出日直前ということもあってか、とても心地良い時間が流れた。……今もその感覚は残っている。

寮の灯油ストーブの周りに集い、気のおけない友、同じ釜の飯を食う友と、夢や希望について賑やかに語り合った際の充足感、今でも昨日のこのように感じられる。

阿野先生に褒められた時は、とにかく嬉しくて何ともいえない幸福感を覚えた。ただ同時になぜか両親、妹弟が思い出され、人恋しい気持ちになったことも思い出される……。今、原稿依頼を頂いたことを通して、長崎で過ごした時間を、自分なりに振り返ることができ、あらためて気づかされたことがいくつもある。その中、阿野先生と山下神父様の存在が、いかにあの頃の私にとってかけがえのない存在であったかという

「アシジ便り」

カエルとガマの
5月幸せ対談

アシジ在住 谷村達郎神父

カエル：「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ14:6 共同訳)

ガ マ：同じ箇所、山浦玄嗣先生の訳では、「イエスの言葉」山浦玄嗣文芸新書

「わたしは人を本当の幸せにみちびき、人が本当の幸せになるなり方を教え、人を幸せに生き活きと生かす。」

カエル：みことばが、心にストーンと落ちますね。

ガ マ：ほんとに！ 心にしつくりとしみわたります。なんとわかりやすい訳でしょう！

カエル：イエスさまは、たしかに本当の幸せになるなり方を教えてくださいました。

ガ マ：イエスさまに導きを請うて近づいた人はみな、幸せに生き活きと生かされていますね。

カエル：その人たちは、みな、しつこく、しつかりしています。

ガ マ：イエスご自身しつこく何度もしつこく繰り返して説かれました。

「おれがおまえさんたちに与える掟というのはたったひとつだ。それは、お互いに相手を大事にしあえということだけだ。人が心からしあわせになり、神さまのお喜びのもとになるためのたったひとつの掟はこれなのだ。」(P109)

カエル：「敵(かたき)だってもどこまでも大事(でアジ)にし続(つづ)げろ。」

ガ マ：しつこく、人の心に信頼と相互理解をつくりだす努力をしつかりと続けることなのです。

カエル：カナンの女もしつこく願います。「……とんでもないことです、旦那さま、だって犬ころでも旦那さまの飯台からこぼれるご飯粒ぐらいいただきますよ。」

ガ マ：イエスさまは感動されました。「ああ、母さん、この俺をそんなにも頼りに思ってくれるのか！ お前さんの願うとおりに、なれ！」その時、娘の病がなおされたのであった。(山浦師私訳

ガ マ：願って、願って、願いつづける。そうすれば、貰える。探して、探して、探して。戸を叩いて、叩きつづける。そうすれば、戸を開けてもらえる。誰であ

れ、願いつづける者は貰うであろうし、探しつづける者は見つかるであろうし、戸を叩きつづける者は開けてもらえる。(山浦師私訳

ガ マ：「神の国(神さまのお取り仕切り)に参加するには、このしつこさが必要なのだと、イエスはしつこくしつこくいつているのであります。」(イエスの言葉P.158)

カエル：イエスさまは、このしつこさこそ、幸せになるなり方だと教えておられます。

ガ マ：しあわせな方マリア♪：とうたいます。マリアさまもイエスの母として、しつこく生き抜かれました。そして、今もいつもすべての人の母として、わたしたちのためにしつこくとりなしててくださいます。

カエル：ペトロはじめ、使徒たちしかり、聖フランシスコと聖クララしかり、聖人たち一人ひとりしかり……。

ガ マ：しつこく・は、飯館村のまじいにつながらるように思います。ほんとうの幸せへの道です。

カエル：ほんとにそうですね。山浦先生は東北の地で震災のあと、『イエスの言葉』(文芸新書)を出

されました。カエルもガマも繰り返し繰り返し、しつこく読んでいます。合わせて「ガリラヤのイエシュー」(イー・ビックス出版)も大事に読んでいます。みなさんにもぜひお薦めしたいです。

「イギリス便り」
作業療法士として

奄美支部 勸 倫太郎



同窓会の先輩方そして後輩の皆さん、お久しぶりです。再び会誌に投稿させて頂きます。ありがとうございます。

今年の1月に作業療法士のコースが終わり、4月にやっと正式にその資格が認められ作業療法士になることが出来ました。2年間のとても短く辛かったコースが、やっと終わつたと少し嬉しい反面、就職活動の始まりで、気を引き締めないと、と気持ちの切り替えが必要でした。

さて、最近の英国の状況を、ご報告したいと思えます。今年の英国は、今まで私が過ごした10年間の中で、最も賑やかです。6月5日は、英国女王の即位60年を記念した休日、ロンドンでは多彩なイベントが

平成23年度 決算報告書

摘 要	収 入	支 出	残高等
前年度繰越金	1,024,711		
会 費	309,000		
懇親会会費収入	161,000		
入 会 金	39,000		
クラブ援助費		40,000	
学園劇寄付金		50,000	
学園劇花代		15,000	
会 報 誌 代		231,000	
送 料 等		74,960	
懇親会費用		108,100	
封 筒 代		9,160	
会 議 費		2,730	
葬儀花代等		15,000	Br. 阿野先生
合 計	1,533,711	545,950	987,761

平成24年度 予算計画書

摘 要	収 入	支 出	残 高
繰 越 金	987,761		
会 費	300,000		
入 会 金	66,000		
奨 学 金		120,000	
クラブ活動援助費		30,000	
会報送料・通信費		80,000	
会 報 印 刷 費		200,000	
会 議 費		5,000	
予備費(花代等)		50,000	
合 計	1,353,761	485,000	868,761

聖母の騎士学園同窓会 (本部役員名簿)

会 長	大石 諭	副会長	石田 光勝
書 記	小島 正人	会 計	赤尾 城司
顧 問	崎濱 宏美	監 査	峰 徹
	水浦 久之	事務局	熊川 武俊
理 事			
木場田友次、里脇 岩男、窄口 富行			
吉岡 繁信、松本 修、山村 幸雄			
梅木 修、松下 昭征、内野 洋平			
大水 恵一、山浦 義春、竹内 松雄			
辻 太			

催されました。私の住む小さな町でも、お祝いの茶会が行われていました。

その他にも、今年の夏にはロンドンでオリンピックが開催されます。それに伴い、トーチリレーが行われています。先月末には北ウエルズにトーチリレーが来ました。私が住んでいたバンガーでもリレーが行われ、多くの住民の方々がリレートーチを一目見ようとリレーのルートに詰めかけていました。

ヨーロッパ大陸の方では、サッカーのEURO2012がウクライナとポーランドで開催されました。サッカーは、ヨーロッパのどの国でも人気のあるスポーツで、欧州サッカー選手権は4年ごとに開催される大会で、とても注目の高いイベントです。これらの賑やかイベントが行われ

ている一方では、ヨーロッパ圏における経済問題や、ギリシャの国債問題、スペインの銀行問題などの深刻な問題があり、暗いニュースが流れています。もちろん、英国でも国債を減らすための政府による予算の大幅な削減に、税率も上がり、若者の失業率も高く、経済的成長率も伸び悩んでいます。

特に、大幅の削減予算には、地方自治体や教育機関、そして、特に医療機関に大きな影響をもたらしました。公務員の給料の引き下げや年金の引き下げなどの政策が行われました。それらの政策に応じて地方公務員達のストライキが各地で行われました。NHS (National Health Service) と呼ばれる国営の医療機関への影響は大きく、お医者さんや看護師さん達を含むストライキを初

め、学校の先生達のストライキの為に学校が一時的に閉鎖されたりしました。

こういった状況の中で、NHSや地方自治体が主な雇用先の作業療法士としての就職活動は、あまり良いとは正直言えません。特に私の住んでいる北ウエルズには仕事がとても少なく、特に私の様な資格を取ったばかりの新米には、厳しい状況です。先日やっと臨時の非正規作業療法士として北ウエルズの病院で働くことが決まりました。

今、あるアメリカ人の言葉が、頭に浮かびます。Be ready when opportunity comes. Luck is the time when preparation and opportunity meet. 和訳すると、「チャンスが訪れる日に備えなさい。幸運は、準備とチャンスが出会った時

です。」

今の私にとって、もしも正規としての仕事の機会が来た時に、どれだけの十分な準備が出来ているかが必要以上に大切だと思っています。臨時の職員として、仕事が無いときは勉強する絶好の機会だと自分に言い聞かせるように努力したいと思っています。それから、これから英国に於ける状況がどのように変化するかは分かりませんが、どんな状況でも自分のチャンスが見出せるように頑張りたいと思います。

それでは、同窓会の皆様の御健康を英国からお祈り致します。



活躍するOBたち

おーびー ◆ミニ特集



看護師、 臨床工学技士として

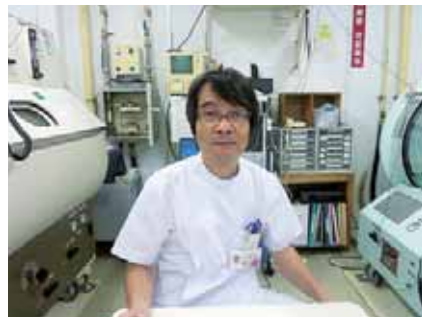
奄美支部 丸田保之

聖母の騎士高等学校を卒業して早いもので30年、今でも目を閉じるとあの30年前の記憶が蘇ってくる。

昭和54年4月中学卒業したての私は兄(丸田宗八郎)従兄弟(山田誠一郎・山田誠・山田光人)と一緒にクインコーラーに揺られて12時間かけ鹿児島に到着。そこから鈍行電車で長崎へ向かった。途中鳥栖で乗り換え、そして長崎駅に着いたのはもう既に夜の9時を過ぎていた。長崎駅前にあったパチンコ屋のネオン

サインは田舎者の私の心を揺さぶるには充分だった。そして路面電車では喫茶屋に着き聖母の騎士の寮へ到着。こうして私の聖母の騎士での3年間が幕を開けた。

寮生活は私が思い浮かべた都会ライフとはかなりかけ離れた生活だった。朝6時に起床、ミサ、朝食、登校、下校、部活、夕食、自習、消灯下界(娑婆)に出られるのも月に一回の外出日の数時間だけ。5月には見事にホームシックにかかってしまった。でもそれを乗り越えキャンパスライフを楽しむ余裕も生まれてきた。高校1年の夏休みの補習授業の夜中に数人で寮を抜け出し近くの公園で飲酒(もう時効)。先輩達と



夜中に諏訪神社の屋台のラーメンを食べに行った事。またあの当時の寮はインスタントラーメンが禁止で数人で食べているのを見つかり、寮内謹慎。極めつけが高校二年生の時に同郷の押川君と寮内飲酒。見事に阿野先生に見つかり謹慎退寮。そんな寮生活だった。

そんな私も高校3年生となり進路に悩む日々が……共通一次を受け

る頭もないし、どこか専門学校を受験しようと思っていたら友人の岩崎君が看護学校を受けると?「ならば言いよつとや、男が看護学校受けられるもんか」って皆笑っていたけれど、男も本当に受験できる事が判明。そういうわけで私も彼に付き合い受験。決して最初から看護師(白衣の天使)を目指したわけではなく面白くなかったら辞めれば良い程度の受験。なんとか試験には合格。そうしてわたしの長崎市医師会准看護学校生活がスタート。聖母の騎士出身の私にとって全く正反対の学生生活の始まりだった。

聖母の騎士時代はどちらを向いても男性ばかり。看護学校は一年生200人中男子学生5人。人は羨ましがりそうだけどそんな事はなかった。周りはどこを向いても女性ばかり、聖母の騎士で三年間女性と会話

をした事のなかった私は見事にクラスで浮いていた。2年生になってやっと喋れるようになったかと思ったら卒業。一応高看にも進み正看の資格を取得。その後私を今の世界に導いてくれた岩崎君はバイク事故で看護師国家試験の合格発表を前に天国に旅立ってしまった。彼のお通夜には同窓生も集まり同窓会気分だったけど悲しかったな。

そして私は、長崎の戸石の病院に就職。2年後やはり帰郷の念かられ奄美の病院に就職。5年間勤務した後鹿児島県立病院に就職し現在に至っている。県立大島病院では手術室、救急外来、そして現在透析室で看護師・臨床工学技士として勤務。

臨床工学技士?聞いた事がない?最近少しは名前が知られるようになったけれど、医療機器を専門に扱う技士と説明したほうがいいのか。

私の場合10年前総看護師長から呼び出され、臨床工学技士の資格を取りに1年間神戸の学校に行くように言われた。私にとっては聖母の騎士に入学した時と同じように都会のキャンパスライフを思い浮かべて行く事を承諾。しかしそんな甘いものではなかった。実習先は神戸大学で人工心肺、透析、ME機器、手術室、ICUと回り、レポート、レ

ポートに追われる日々。何度レポートを書きながら朝日を迎えた事か。都会のキャンパスライフどころではなかった。

でも友達はでき、レポートの合間に飲む回数が増えた。そんな1年間を過ごし帰郷。現在も色々仕事で事で悩む事があるが、聖母の騎士で頑張れた3年間があるから、辛くて

聖母の騎士を巣立つ 金策に奔走し、 人様に触れて

奄美支部 恵川龍一郎



私は高校の3年間を本河内で過ごし、よく叱られ、奄美への帰省が待ち遠しく、勉強は苦手でした。当時の写真を見ると暗い眼をしています。ちよっぴり切ないです。卒業後は家庭の事情もあり、働しながらの学生生活つまり、学問よりバイト生！でした。お金にゃ勝てんけど、いろんな人と出会い、助けられ、学ばせてもらいました。

長崎の片隅の寮生活からいきなりの東京下真ん中での水商売。水を得た魚のごとくに飛び跳ねました。いえ、まな板の上の鯉、ゼロからの

も頑張っていこうと思うことが出来る。でもやっぱり飲む回数が増えてしまった。

現在の家族構成は、妻、長男20歳(奄美看護福祉専門学校介護科2年生)、長女12歳(名瀬小学校6年生)、趣味はバイク(現在10年目になるHONDA CB400SFに乗っている)。

料理の修業、厳しい先輩でした。10人ほどのホステスさんへのまかない飯作りから始まり、終電の時刻まで働きました。

私立大学でしたので授業料は高く、アパート代、よせばいいのに新車バイクのローン、燃料費や違反キップ代など、ギリギリでしたが、ひたすら峠を攻めていました。まかない付きで、一晚9千円頂いておりました。夜食もありました。勉強はしませんでした。

ある日、大ケガをして約40日の入院を余儀なくされました。収入は途絶え、入院費はかさみ、ついに授業料の納付期限を迎えてしまいました。

見舞いに来てくれたのがおかみさん。退学の決意を話すと、「あんたみたいな人が社会で活躍しないでどうするの!」と、ガキの私を叱り飛ばしてくれました。おかみさん・

先輩料理人・ホステスさん・オーナー・常連のお客さんらが、30万円を集めて下さいました。

退院後は職場に復帰させて頂き、無事卒業もできました。「身の上話はあるな。前借りはするな。辞めたら二度と顔出すな。」これが水商売の掟。卒業後東京を離れる時、挨拶に伺いましたが「二度と顔出さずじやないよバカ」「情がうつるから」と釘をさされました。

「人間扱いされるワケがない」「オレなんか二流三流以下、どうしようもない」と思い続けていた中学・高校・大学時代のマイナス思考の自分を変えてくれた一件でした。お金をお返しすることもできません。二度と会えない方々が今でも私の支えなのです。

大学院に合格しちゃいました。どうしても臨床心理学を学びたかったです。催眠療法技術を習うため学外の研究所にも通います。大学院と学外心理研究所2か所で授業料発生! 研究の時間が必要、お金も必要。

そこで選んだのが、ゴミ回収車(パッカー車)の運転手。大型免許持っていてよかった。朝3時から8時までの5時間労働。給料30万円。ほとんどがワケアリの従業員です。ゴム手袋をはずしたら、あら

まあ：○がない!風呂を御一緒すると、そりゃあ見事なもん○○。借金返済か更生か、とりあえずお金の返す。

大阪ミナミの生ごみの匂いが体に染みつきます。あなたもいろいろ。わたしもいろいろ。いろんな匂いの重なりです。でも研究時間もたつぷり、お金の心配もありませんでした。危険な仕事でしたが、事故もケガもなく、人生で初めて猛烈に勉強し、研究成果をあげることのできた意義深い2年間でした。

また大ケガをしました。今度は体でなく心です。心理療法家とはいえない初心者マークです。経験が足りません。ヤブでした。クライエント(相談者)が連続3人自殺したのです。私も壊れてしまいました。2ヶ月引きこもりましたが「うつ病」は深まるばかり、病気を理由に金銭を頼る人もいません。心理研究所所長の紹介で山奥にある自閉症専門の施設に、非常勤ながら就職できました。施設側も半病人の私を受け入れてくれました。

「自閉症の子のまなざしにはくもりがない」澄んだ眼の奥からテレパシーのように語りかけてくるのです。言葉など使わずに。私の「うつ病」は2週間で何処かへ行ってし

まいりました。障害児に助けてもらったのです。マイナス思考の学生時代・学歴コンプレックスをかき消すための大学院・自分探しの猛勉強・まだ足元のおぼつかない20代後半・神様に与えられた「うつ病」、癒してくれたたまざし、やっと自分の道が解った気がしました。

福祉的援助技術と心理療法の融合によって、職場の雰囲気も大きく変わりました。この法人には、街中に障害者施設を開設する計画があったのです。私はその初代施設長に突然抜擢されました。「うつ病」発症から1年後のことです。30歳です。

10年間施設経営に携わり経験も得ました。そして独立資金も貯まりました。40歳で奄美大島へUターン。さあ、一からの施設立ち上げです。軌道に乗るまでは、ま



たもやアルバイト。児童相談所での夜勤と土日の日勤・中学校での心の相談・社会福祉協議会でのカウンセリング等々。

週80時間労働が6年間続きました。過労で激瘦せしましたが今度は「うつ病」にはなりません。出口が見えていたからです。今は軌道に乗り、夢に満ち溢れています。

思い起こせば聖母の騎士学園・寮生活。卒業後の行き場所もない。親もとを離れて不安の中で、カラ元気になり時には落ち込み、デリケートな時期を過ごさせてもらいました。

決まりを守らずやんちゃしました。叱ってくれて、受け入れてくれてありがとう。

今でも空いた時間にはカウンセリングをしています。人生に順風満帆などあり得ません。感情に拘束されず、まなざしの深みとの対話ができること、これは感謝です。賛美です。

ところで英彦山、ムカデがいっぱいいましたよね。今もすごいですか。私はコカ・コーラの瓶に何百匹も収集していましたよ。開けるときは臭かったなあ…。そんな心で生活していましたあ。

事務局より

●平成24年度学年理事
嶋崎康介君。少々内気ですが、英語が得意で英会話OKです。

●同窓会奨学生

高原秀彦先生奨学生決定
奨学金は、成績の良し悪しにかかわらず家庭の経済状況を考慮することを第一とする事になっています。今年度は1名の採用です。成績も上位で学習態度、生活態度とも他の模範となる生徒です。5人兄弟の長男で、国立大進学を目指しています。1ヶ月1万円を1年間援助します。

●ミニ便り

※このコーナーは、皆さんが振り込み用紙に書いて下さったお便りを紹介しています。これからも大いにご利用願います。(敬称略).....

▲忠巧は、マイペースで頑張っている様子です。

奈良市 吉田忠巧君のお母様

▲阿野勝見ブラザーの逝去を知り、心からお悔やみ申し上げます。在学中は班長さんとして、また、卒業

後、在京の同窓会のことでも色々とお世話になりました。温厚な聖母の騎士として活動されたことは、私たちの鑑です。永久の安らぎの家に私たちをお導き下さい。

東京都 川口雄二

▲アダムさんが帰天した。元氣印の彼でした。天から見守って下さい。

鹿嶋市 田邊久義

▲送金が遅れて申し訳ありませんでした。いつもきれいな会報を有り難うございます。これからも、貴会と母校が益々栄えます様に。

諫早市 松尾豊樹

▲今年も楽しい、懐かしい盛り沢山の情報誌、有り難うございます。関東支部も少し若返り、池田君、徳永君の新しい動きで期待できます。奄美支部の様に楽しい集まりを持ちたいものです。

鎌倉市 平松寿護

▲今年も出席できません。ごめんなさい。

佐世保 藤村大造

▲息子、勇太郎と二人分です。

五島市 峯重昭、勇太郎

▲今年も「英彦の泉」に励まされま

した。特に、「活躍するOB達」の記事を読んで、聖母の騎士の懐の深さを感じます。来年も楽しみです。

桶川市 斉藤 優

▼マリア！行かない決心をしておりました。しかし、行くことに決心しました。

長崎市 高見正明

▼ご苦勞様。会報、楽しく拝読致しました。

長崎市 小場田友次

▼卒業して20年以上経ちますが、どうにか元気に頑張っています。今年で51才になりました。聖母の騎士学園時代のこと、懐かしいですね。色々お世話になりました。

佐賀市 小川徳晃

▼英彦の泉を読みながら、青春を思い出しています。私は14回生、昭和38年卒。奄美名瀬出身。あの2回にわたる大火災の時は、高校3年生でした。すっかり年を取りましたが、陰ながら応援しています。

大牟田市 泊 秀信

▼毎年「英彦の泉」有り難うございます。事務局にはいつも感謝します。今回も各支部便りは面白く読ませて頂きましたが、特に、「ミニ特

集」の企画は良かったと思います。以前から学園劇の開催には少々抵抗感を抱いていましたが、少し変わった気がします。次回は過去に出演した皆さんの感動物語を聞きたいと思っています。

千葉県 岡 信夫

▼ご盛会をお祈り致します。世界平和のためにご健闘下さい。

諫早市 末吉矢作

▼既に古希を迎えた私にとって、若い同窓生がそれぞれの分野で活躍されている事を知り、嬉しく思っています。特に、矢上町の文字を目にして、懐かしい砂浜が脳裏をよぎりました。

寝屋川市 萩原儀一

▼英彦の泉、楽しく読んでいます。特に、奄美支部の活動が羨ましいです。佐賀支部もいつかは作りたいですね。佐賀出身の方御連絡下さい。

☎09521261333

佐賀市 塚原裕一

▼今年も会報を頂き、楽しく、懐かしく読ませて頂きました。同窓会役員、並びに会員の皆様方のご活躍を祈念致します。昨年のお費、失念しておりましたので、2年分送らせて頂きます。

堺市 竹口良巳

24年度総会・懇親会のお知らせ

10月13日開催

会場
コルベ記念館ホール
(御ミサ：コルベ志願院)

総会 17時00分～
懇親会 18時00分～

会費 2,000円



参加お申し込みをされる方は、別紙申込用紙をFAXか郵送していただくか、下記メールアドレスに御連絡下さい。

連絡先

FAX: 095-823-4759

Eメールアドレス (熊川)
toshi_dominic_kumagawa@yahoo.co.jp

編集後記



「英彦の泉」16号をお届け致します。皆様お元気でしょうか。元気が一番ですよね。また大切な方が帰天致しました。阿野勝見先生です。寮生活をした者なら、みんながと言っても良いほどご迷惑を掛けた方です。

生前は、冗談か皮肉かわからない言葉を真顔で、そして、時には含みのある顔をして、婉曲的に「しっかりせんば〜」というエールをいつも送って頂いておりました。それから、病床でのやせ細った姿は、「もつとしっかり生きなさい」という、無言のメッセージをも私たちに送ってくださったと思います。寂しくなります。

去年の理事会での話ですが、長崎以外で総会を開いたらどうかという意見がありました。それには賛同も多

く、「奄美でどうか。」「博多はどうだ?」「東京って事もあある!」そうそう、同窓生は全国各地にいる。各地区持ち回りはどうだ?」等と、みんな好き勝手なことばかり……。そこで、アンケートを取る事になりました。皆さんにお願いです。この話に興味のある方は、会費振り込み用紙に開催希望地等のご意見を頂けませんでしょうか。可能であれば、実施を検討したいと思います。

さて、今年の同窓会は、「安く」実施します。ここ数年、参加者数は20名前後。しかも、殆ど同じ顔ばかり……。という現状を踏まえ、もつと若い人が参加しやすい同窓会にしようということ、参加費2千円ということになりました。会場もコルベ記念館ホールです。古びた校舎を訪ねて恩師と語らい、その後、参加してみても何でしょうか。沢山の参加者をお待ちしています。

(くまがわ)